

地元住民の皆さんにご理解いただける オープンな経営



山崎社長

中央リサイクルセンター株式会社

(愛知県西尾市)

西三河を走り抜ける国道23号線沿いに立地し、コンクリート廃材の再生クラッシャーランの販売を行っている中央リサイクルセンター株式会社。三方を山林に囲まれた絶好の環境の中で事業を営まれている山崎社長にいろいろお話をうかがいました。

— 周囲に民家もなく、絶好の作業環境ですが、ここで事業をはじめられたのはいつ頃でしょうか。

山崎社長（以下山崎に略）『この会社は昭和63年に西三河地区ではじめてコンクリート廃材の再生・販売を行う会社として設立しました。当社はそもそも西尾市内の建設会社2社の共同出資によるものです。その内の1社の代表取締役も私が務めています。』

— コンクリート廃材は年間にどれくらい処理されていますか。

山崎『約10万tを処理し、再生しています。事業をはじめた当初は、現在ほど再生品に対する理解もニーズもなかったため、再生品をどこで使っていたかと思案しました。』

— 再生品をつくるにあたって貴社が心掛けていらっしゃることは何ですか。

山崎『まず、品質にバラつきがないようにすること、再生品を安定して供給できること、そして使っていただく方の立場を十分に理解して再生品をつくることです。私たちが取扱うものは建設廃材1品目のみですから、およそ変なものが再生品に混ざっては困りますから。』

— 貴社施設に対する地域住民の皆さんの声はどうですか。クレームなどはありますか。

山崎『地元の方々とは機会あるごとに対話する



社名/中央リサイクルセンター株式会社 所在地/愛知県西尾市家武町柳本122番
地 代表者/山崎周彌 創業/昭和63年 従業員/5名 TEL/0563(52)4501
事業所/本社 営業種別/収集運搬、中間処理(破砕)
取扱物品/建設廃材

ようにしています。工場内をガラス張りにして、いつでも見学に来ていただけるように開放し、常に良好な関係を保てるよう努めています。また、クレームのお話が出ましたが、現在まで1つありません。オープンにして隠しだてをせず、進んで地元の方々の所へ出向き話を誠心誠意すればわかっていただけるものです。』

— では、工場内の粉塵対策などはどうされていますか。

山崎『場内には常に山からの水をまき、処理槽を設置し、粉塵対策を実施しています。』

— 最後に施設拡充等の計画をお持ちであれば、聞かせていただけませんか。

山崎『再生品の安定供給が至上課題ですので、場内にストックヤードを増設しニーズにお応えしていきたいと考えています。』